

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,548	t-CO ₂
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		3,548	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	3,548	t-CO ₂	3,512	t-CO ₂	1.0

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和9年度 目標削減率	
	原単位当りの 排出量	9.643	t-CO ₂ / 千平方メートル	9.547	t-CO ₂ / 千平方メートル	1.0

(2) 目標設定の考え方

竣工当時より、省エネが計られている建物であり、今以上のエネルギー削減が非常に困難。照明器具・誘導灯のLED化を順次提案し、CO₂排出量の削減を図っていく。例年同様、目標削減率は1%と設定した。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当りの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当りの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー行動の実践（冷暖房）	・自動制御装置や中央コントローラーは、定期的に保守点検を行い、誤動作等を防止する。	
省エネルギー行動の実践（照明）	・タイマーや自動点滅器の動作状況を定期的にチェックし、不要点灯や誤点灯を防止する。	
省エネルギー行動の実践（OA機器）	・パソコン等の電源を、離席時・退社時に可能な限り電源オフする。	
廃棄物の排出抑制・リサイクルの促進	・各テナントから排出される古紙・雑がみ等の資源化出来る紙を可能な限り分別・回収しリサイクルを促進する。	
省エネルギー行動の実践（冷暖房）	・暖房時の加湿制御の調整にて、給水時間を調整することにより、空調機給気温度低下を抑制する。	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--